

取扱注意

平成27年度第3回運営委員会 議事概要

- ・開催日時 平成28年3月22日（火） 14時～16時
- ・出席者 運営委員：13名出席（欠席委員：2名）  
 ウィズセンター：所長、次長、職員  
 男女共同参画青少年課：担当班長

議 事	概 要
<p>1 開会 2 議題 (1)平成27年事業の実施状況について (2)ウィズセンターの利用状況について</p> <p>[質疑等] 委員</p> <p>ウィズセンター</p> <p>委員</p> <p>ウィズセンター</p>	<p>ウィズセンター説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業に一定数の参加者はいるが、その事業がリピーターばかりでなく新しい利用者の獲得につながっているのかどうか把握しているのか。</li> <li>・ゼミナール事業の修了された方について、参加して終わりではなく、登録制度にするなど実際に地域で活動してもらうための取り組みが必要ではないか。</li> <li>・「多様な働き方ができる企業との出会いの場づくり」事業については、参加者の内、どれだけ就職につながっているか成果を掲載しているが、この資料によりこの事業が一定の成果を上げていることが確認できる。こういった成果を確認できるデータを把握しておくことは重要である。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業が新しい利用者の獲得につながっているかどうかについては、ゼミナール事業とウィズカレッジ事業のアンケート結果から、講座によっては初めて参加された方の割合が4割、6割といった講座もあるが、平均すると3割弱程度である。</li> <li>・ゼミナール事業については、修了生名簿を市町村へ送付し、地域における啓発活動などへ積極的に登用してもらうよう市町村に働きかけている。来年度は、基礎的講座と地域で活動してもらうために必要な専門的知識や企画力、ファシリテーション力といったスキル向上のための講座を企画しているところであり、これまでに修了された方にも声をかけたいと考えている。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナール事業について、今年度開催した講座の中に男女共同参画の基本である男女の意識改革につながる講座がなかったように思う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の事業になるが、「ワーク・ライフ・バランス実践研修会事業」では経営者の意識改革が進んでいないなど、意識改革、男女共同参画の視点をもつことの重要性を強く実感したところである。来年度の講座の選考に当たり、是非参考としたい。</li> </ul>

議 事	概 要
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナール事業についてだが、以前は開講式にて知事が講話をされるなど、男女共同参画社会の実現に対する県の強い姿勢が感じられた。現在は女性活躍が推進されている中、今一度県の強い姿勢を見せてもらいたい。</li> </ul>
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県では、この度「第4次おかやまウィズプラン」を策定したところであり、このプランでは男女共同参画社会の実現に向け、新たに、①「男性の『働き方』に対する意識改革」、②顕在化してきたDVなど女性の人権を守るための関連施設との推進体制の強化と民間団体等との協働、③女性が働き続けることのできる環境づくり、④子育て中の女性への就職支援、の4つの施策を追加したところである。</li> <li>・知事も男女共同参画に関しては、2月27日に内閣府、岡山大学などの主催による「男女共同参画に向けた学生と企業のマッチングシンポジウム」が岡山大学で開催された際、パネリストとして参加されるなど男女共同参画には非常に理解を示している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講座の参加者が、講座を受けて意識が変わったといったような事業の効果測定がされているのか。アンケートの取り方も見直す必要があるのではないか。</li> <li>・ウィズカレッジ企画講座には、男性や若い世代に着目した講座も開催することとしているが、若い世代等がどのくらい参加しているか把握しているのか。例えば、3月12日に開催された「漂流する少女たち」では、どれくらいの若い世代が参加しているのか。</li> <li>・他の講座の中には、若い世代等の参加が期待できないようなものもあったように思う。</li> <li>・PR事業について、情報誌を6,000部発行しているが、配布先はどういったところか。県全体にアピールしていくためには、県広報紙を活用した方が効果が大きいと思う。</li> </ul>
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果測定については、各講座ごとアンケートを実施しているが、昨年度実施されたウィズプランの改訂に伴う県民意識調査の項目なども参考にしながら、意識改革の効果などを確認できるようアンケートの取り方も工夫したい。</li> <li>・3月12日に開催したウィズカレッジでの若い世代の参加の状況については、現在手元に資料がないため後日報告させていただきたい。</li> <li>・ウィズカレッジ企画講座は、男性・若い世代に着目した講座のみではなく、ワーク・ライフ・バランス等に関する講座も対象としているので、ご理解いただきたい。</li> <li>・情報誌の配布先について、主なところでは、市町村、公民館、図書館、大学、高校、病院である。PRについては、メールマガジンやフェイスブックなども活用するなど効果的な広報に努めてまいりたい。</li> </ul>
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県広報紙の活用については、この度改訂したウィズプランを掲載してもらうよう担当課へ要望しているところである。</li> </ul>

議 事	概 要
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度9月に発行した情報誌の表紙について、インパクトはあるがメッセージ性に乏しいとの意見を聞いた。以前は、絵手紙とか写真もあったが、貴重な1ページなのでメッセージを与えるようなものにしてもらいたい。</li> </ul>
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この号の表紙については、当方にも賛否両論の意見があった。来年度から情報誌の予算も削減となりページ数を減らさざるを得ないため、例えば表紙から事業の記事を掲載するとか、お話しがあった絵手紙や写真も含めて、検討してまいりたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デートDV防止講演会について、高校等を対象としているが、どのような感想があったのか教えてもらいたい。</li> <li>・講演会を開催した5校はどのように決まったのか。</li> </ul>
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この講演会は、当初多くの高校から要望があったが、調整に着手する時期が遅れたため結果的に5校となってしまった。28年度は早々に着手したい。参加者からは、「デートDVは暴力だけだと思っていたが、言葉の暴力や束縛もデートDVに入ることが分かった」、「嫌なことは嫌と素直に言っているということがわかった」、「自分たちが思っていなかったこともデートDVになるということを知った」といった感想が寄せられており、若い世代へのデートDVの啓発が重要であると感じている。</li> <li>・男女共同参画青少年課から各高校等に対し、ウィズセンターで実施している当該講演会の希望の有無について照会しており、希望する高校等から選考したものである。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働く女性生き生き企業スタートアップ支援事業」について、1社当たり10万円を支給する事業のようだが、どういった取組に対して支給するのか。</li> <li>・この事業が来年度から男女共同参画青少年課へ移管されるとのことだが、是非円滑に実施されるよう引き継いでもらいたい。</li> </ul>
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に中小企業を対象としており、女性が活躍できる環境づくりの重要性を認識しているが、なかなかアクションを起こせないでいた企業に取り組んでもらい、その実績に対して10万円を支給する事業である。2つ以上の取組が必要であり、具体的には、育児短時間勤務の対象を法定を超えて拡大したり、子どもの看護休暇制度の拡充、フレックスタイム制の導入、男性の育休取得の促進、イクボス研修など多種多様なものとなっている。</li> </ul>
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度から当課にて担当することになるが、ウィズセンターの実績を活かしながら更に発展させていきたいと考えている。また、関係する「労働雇用政策課」「子ども未来課」と当課の3課で共同して、このような取り組みを掲載した冊子の作成を考えており、他の事業者にもこういった取組が広がるようPRにも努めてまいりたい。</li> </ul>

議 事	概 要
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィズセンターの事業に、セクシャルマイノリティに関する取組がない。大きな問題であり、男女共同参画にも関係することなので、事業の中に取り入れてもらいたい。</li> <li>・来所講座で、川崎医療福祉大学の学生が来所されているが、実施に至った経緯と、誰が講師を務めたか教えてもらいたい。</li> </ul>
ウィズセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来所講座について、女性相談所へ川崎医療福祉大学の学生が見学実習に来られた際に、併せてウィズセンターによる男女共同参画に関する説明を組み入れたのがきっかけのようである。講師は、女性相談所の課長とウィズセンター所長で、併せて女性相談所相談員が事例発表を行っている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミナール事業は、初めて受講される方にとっては男女共同参画とはどういったものなのか理解するのに大切な事業である。また、著名な講師から新たな情報を得られるなど大いに役立っている。</li> <li>・男性向け講座をいろいろ考えて企画してみても、なかなか男性には参加してもらえない。何かよい方法はないか。</li> </ul>
男女共同参画 青少年課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4次ウィズプランでは、新たな取組の一つに「男性の『働き方』に対する意識改革」があり、その施策を進めるためには男性も参加したくなるような事業を企画していかなければならない。県といたしても皆様のお知恵をいただきながら検討してまいりたい。</li> </ul>
3 閉会	<p style="text-align: right;">以 上</p> <p style="text-align: right;">＜速報のため事後修正の可能性有り＞</p>